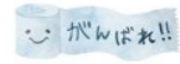




外部専門家相談が始まっています



専門家の方々が実際に子供たちの様子を見にきてくださり、職員に助言してくれています。児童生徒と接する中で、どうしたらいいんだろうという疑問や不安に寄り添っていただき、先を見通したヒントをたくさんいただいています。

今年度関わってくださっている方々を紹介します。

身体・呼吸に関わること

理学療法士 (PT)

中村 久江 氏 藤村 勇人 氏
石ヶ森 友佑 氏 中田 隆文 氏

手の使い方 (筆記や作業 など) 遊びに関わること

作業療法士 (OT)
三上 詩織 氏

摂食・言語・コミュニ ケーションに関わ ること

言語聴覚士 (ST)
佐藤 喜代 氏

排せつ・身体介助に関 わること

日本コンチネンス協会
会員 (排泄ケア専門員)
堀切 ひろみ 氏

相談事例のご紹介

「一人でトイレができるように (ズボンを下げるのが難しい)」という相談がありました。外部専門家の先生より、新しい姿勢をご提案いただき、本人・保護者さんともに納得して前向きに取り組んでいます。課題を一つ一つクリアし、卒業までに、「一人でトイレができるよう」一緒に取り組んでいきましょう。

排せつ相談

5月末に排せつの個別相談を実施しました。今年度も排せつにおける専門家として、本校にご勤務いただいていた堀切ひろみ氏に個々に応じたアドバイスをいただきました。今回の個別相談で多かったアドバイスを簡単にまとめましたので、ご一読ください。

○排せつ記録をつける

排尿回数や間隔・尿量・尿の色、排便の有無・形状・色を記録しておくことで、健康状態のチェック、異常の早期発見、合併症の予防など「いつもと違う」ことに気づきやすくなります。

○緊張が強い児童生徒

トイレは介助者と1対1で過ごせる貴重な時間です。貴重なコミュニケーションの時間と捉え、児童生徒の表情や体の動きを確認しながら、丁寧に声がけしていきます。膝下にクッション等を入れ、膝を立てることで、直腸肛門角が緩み、お腹のガス・便溜まりが楽になります。腰や膝を優しくゆらゆらと揺らして、緊張が緩むのを待ちます。緊張が緩んでから、オムツ交換をします。

○便秘

本校の児童生徒の多くは消化しやすいものを食べ、運動量が少なく、鎮静剤や抗けいれん剤を長期にわたって服用していることも多く、便秘になりがちです。便秘は腸閉塞 (イレウス) や痔疾にもつながります。自然排便を促す工夫として、仰向けの姿勢では膝下にクッション等を入れて膝を立てる。→直腸肛門角が緩みます。(クッションチェアに座ることも有効です) または、お腹を「の」の字を書くようにゆっくりと手を当てていきます。ガス・便溜まりがあるときは、手を当てるだけでも表情が曇ったり、体に力が入ったりします。そのような時は、また最初の位置に戻り、繰り返します。次第にガスや便が移動し、受け入れるようになっていきます。

今後は、夏休み中に本校教職員を対象として「排せつ指導について」の講義 (実演も含む) と、11月には個別相談を予定しています。ご家庭でも排せつに関わる悩みがありましたら、いつでもお気軽に各担任までお声がけください。排せつ担当の自活部員が困り感を解消できるよう、一緒に考えていきたいと思ひます。